



NanoSquare Newsletter (Japanese) Vol. 1

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10466/14713 |

NanoSquare Newsletter

Vol. 1 December 1, 2009



目次

| | |
|----------------------------------|------|
| 「輝かしい未来をめざして」 理事長・学長 奥野武俊 | P1 |
| テニユア・トラック教員の紹介・行事予定 | P2~3 |
| NanoSquare 拠点ロゴ紹介プログラム・オフィサー石田武和 | P4 |

「輝かしい未来をめざして」

理事長・学長 奥野武俊

平成 20 年 7 月 1 日より、大阪府立大学では、文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業」(5 カ年)の委託に基づき、「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」プログラムを開始しておりますが、ここに、NanoSquare Newsletter の第 1 号の発刊を迎えたことは、プログラム代表者として喜びにたえません。科学技術基本計画の第一期と第二期では、博士研究員の大幅な増員が達成され、第三期では若手研究者のキャリア・パスの確保を目的としたテニユア・トラック教員制度が始まりました。本学でも、振興調整費プログラムに採択され、国際公募によるテニユア・トラック制度をスタートできました。これは、人事制度弾力化の試行としての壮大な計画となっております。

あえて申し上げるまでもないことですが、大学の最も重要な使命は人を育てることにあります。



大学の優れた人材は招聘することもできますが、もう一つのやり方として、大学が自ら卓越した人材を育成するというのが本拠点構想の要となっております。運営委員会では、この拠点を若手研究者がのびのびと活躍できる NanoSquare(ナノ広場)と考えてプログラムを推進しております。ここから公立大学法人の教員として、「地域の信頼」を得て、「世界へ飛躍」していくことを期待しています。

大阪府立大学の新制度で組み込まれた人材育成の新機軸は、幅広い大学で参考としていただけるものと自認いたしております。

関係者の皆様には、今後とも一層のご支援・ご鞭撻をお願い致します。

テニユア・トラック教員のご紹介(第1期)

林 伸彦 (はやし のぶひこ) 先生

●略歴●

1971 年生まれ。岡山朝日高卒(1990)。岡山大学理学部物理卒(1994)。同大学院博士後期課程修了(1999)、博士(理学)。同大総合情報処理センター助手(1999-2004)。スイス・チューリッヒ工科大ポスドク(2004-2007)。日本原子力機構ポスドク(2007-2008)を経て、2009 年 1 月より現職。



●研究内容●

物性理論とくに超伝導現象に関する理論。鏡像反転の欠けた系での特異な超伝導や、異方のクーパ対(つい)に係る超伝導現象の解明に取り組む。

●ひとこと●

応用・技術開発が叫ばれる中、物の理(ことわり)に立ち戻り思考する人材の育成に寄与して行きたい。

西野 智昭 (にし のともあき) 先生

●略歴●

1976 年生まれ。東京大学理学部化学科卒業(1999)。東京大学大学院理学系研究科博士課程中途退学(2003)。同年東京大学大学院理学系研究科助手。博士(理学)取得(2004)。助教(呼称変更)(2007)。同年科学技術振興機構さきがけ研究員(兼任)。2009 年 1 月より現職。



●研究内容●

走査型トンネル顕微鏡を用いた単一分子の化学分析。今まで興味を持たれながら見ることのできなかった対象に対する計測手法の開発を行う。

●ひとこと●

学問領域にとらわれず広い視野で、楽しく、研究を行いたいと思っています。

戸川 欣彦 (とがわ よしひこ) 先生

●略歴●

1974 生まれ。大阪教育大学教育学部附属高等学校池田校舎卒(1993)。東京大学工学部応用化学科卒(1997)。東京大学工学系研究科博士課程修了、博士(工学)取得(2002)。理化学研究所フロンティア研究システム単量子操作グループ研究員(2002-2008)を経て、2009 年 1 月より現職。



●研究内容●

スピントロニクス、超伝導、強誘電、イオン伝導特性を応用し次世代電子素子の開発を行います。電磁場応答のその場解析技術を軸に研究を進めます。

●ひとこと●

「物事の本質をつかみ自らの言葉で語ること」を心に自然科学の不思議に迫りたいと思っています。

児島 千恵 (こじま ちえ) 先生

●略歴●

1978 年生まれ。大阪府立生野高校卒(1996)。大阪府立大学工学部機能物質科学科退学(飛び入学のため)(1999)、同大学院修士課程修了(2001)。京都大学大学院生命科学系研究科博士課程修了、博士(生命科学)取得(2005)。大阪府立大学大学院工学研究科応用化学分野助手(助教)(2005-2008)を経て、2009 年 1 月より現職。



●研究内容●

機能性高分子、有機-無機ハイブリッド材料の作製とそれらのバイオマテリアルへの応用。

●ひとこと●

高分子化学と分子生物学などの異分野融合によって新規ナノバイオマテリアルの創製を目指す。

テニユア・トラック教員のご紹介(第2期)

阪本 康弘(さかもと やすひろ)先生

●略歴●

1971年生まれ。東北大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程後期修了(2000)、博士(理学)。JSPS 特別研究員(1998-2001)、(株)半導体エネルギー研究所(2001-2003)、Stockholm 大学・博士研究員(2003-2004)、同 Junior Research Fellow(2004-2009)。2009年4月より現職。



●研究内容●

電子顕微鏡法を用いたメソ構造物質の構造評価と評価手法の開発。特に、規則性多孔材料に着目しその秩序形成のメカニズムの解明を行なっています。

●ひとこと●

ナノの世界で「秩序」がどのように形成され、記述されているか明らかにしていきたいと思えます。

飯田 琢也(いいた たくや)先生

●略歴●

1978年生まれ。大阪大学基礎工学部卒(2001)。同大学院博士後期課程物理系専攻短縮修了(2004)、博士(理学)。JSPS 特別研究員(2002-2005)。JST-CREST 研究員(2005-2007)。大阪府立大学大学院工学研究科 助教(2007-2009)を経て2009年4月より現職。JST さきがけ研究者兼務。



●研究内容●

ナノ空間において光と揺らぎが織り成す新現象の探求と、新機能ナノ複合材料の製造・計測・操作などの原理構築を目指した理論研究を行っています。

●ひとこと●

「なぜ？」を追求し、未来の科学技術の基盤構築を目指す」をモットーに研究教育を推進しています。

高橋 和(たかはし やすし)先生

●略歴●

1978年生まれ。都立日比谷高校卒(1996)、慶應義塾大学物理学専攻卒(2001)、東京大学大学院物質系専攻卒(2006)、京都大学電子工学専攻ポスドク研究員(2006-2009)、2009年4月より現職。科学博士。JST さきがけ研究者兼務。



●研究内容●

フォトニック結晶ナノ共振器を用いた光デバイスの創出。蝶の羽やオパールなど自然界には特定の波長の光だけを反射する物質があります。フォトニック結晶と呼ばれるナノ構造体はこれと同様の効果を持ち斬新な光デバイス創出の可能性を秘めます。

●ひとこと●

世界一の教育環境を持った研究室を運営していく。

◆ 行事予定 ◆

第2回 NanoSquare Workshop
平成21年12月6日(日) 13:40~18:10
[場所]
大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス
B3棟 118号室

第9回 N2RC 拠点セミナー
平成21年12月10日(木) 13:30~15:30
[場所]
大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス
A12棟 サイエンスホール
[プログラム]
重力波検出技術による極限時空計測への挑戦
[講師]
三代木 伸二先生(東京大学 宇宙線研究所)

NanoSquare 拠点のロゴをご紹介します

プログラム・オフィサー 石田武和

府立大学の科学技術振興調整費のNanoSquareプログラムの拠点ロゴの紹介を致しましょう。



ロゴのキーコンセプトは、「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」は、拠点を『ナノ広場』となぞらえていることです。英語では、『NanoSquare』となります。一方では、ナノサイエンス(Nanoscience)とナノテクノロジー(Nanotechnology)の研究拠点として、『N』は2つのNanoを『Nanoの自乗』=『Nano-Square』=『ナノ広場』との連想となっています。また、数字の『2』に『ドット』を付加することにより、アルファベットの『i』と見なして『i = 私 = 人間』の意味を持たせました。『N』の字が本拠点から若手研究者に提供されるブロードなキャリア・パスを示しているのです。そのキャリア・パスの出口に拠点で育成された卓越した人材『i』が、…との構図です。

本学では、理系のキーカラーとしてブルーが使われてきておりましたが、実学に強いことと関連があるのでしょうか。ひらめきや可能性、人の暖かみを象徴するイエローを組み合わせて拠点を『SQUARE』=『正方形』にデザインしているのは、NanoSquareを『ナノ広場』と見立てて、若手人材が活躍する『自立的環境アリーナー』と表現しております。この広場が、『地域の信頼』を得ることのできる場であり、『世界へ飛躍』できる拠点でありたいのです。やがて、この広場は、府立大学が目指す世界的な拠点へと進化していくことが期待されています。

平成21年5月1日、大阪府立大学は「NanoSquare(ナノスクエア)」（登録5227994号）と「ロゴマーク」（登録5227993号）の商標登録を完了しています。



科学技術振興調整費

平成20年9月19日、文部科学省でも、科学技術・学術政策局で、科学技術振興調整費の「ロゴ」を制定して下さいました。これらの「ロゴ」を有効活用し、学内、学外の皆様の応援を得て、NanoSquare拠点の一層の発展と活性化を目指して行きます。

NanoSquare Newsletter Vol. 1

2009年12月1日発行

編集・発行

大阪府立大学「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」プログラム運営委員会
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1番1号 Phone:072-254-8278(Dial-in) Fax:072-254-7854

<http://www.nanosq.21c.osakafu-u.ac.jp> e-mail: NanoSquare@21c.osakafu-u.ac.jp

